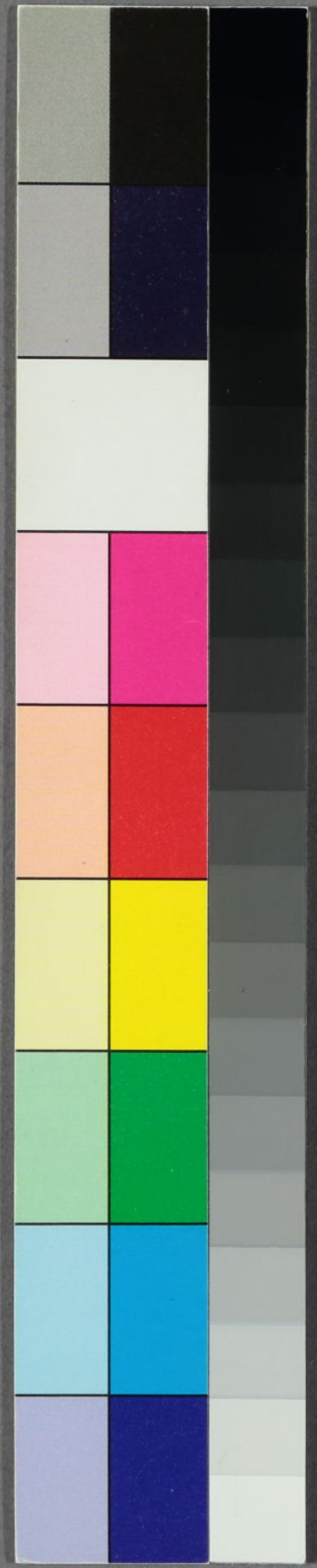


讓曰虎は皮ふ名孤遺一人功よ名と留ると  
と敷束のわらひ統ひ其名古今ふ濟よ品のり  
とふと軍慮もたしく戈矛と採く四海  
と活より大なるなり茲よ莫遂の後紅翠  
齋の主筆と丹青ぬ祐てりて其名世よ晚  
染る今武名の先輩と画く予よ関せむ  
もの有り一糸然披く毎小歎なごるあく美  
あふあゝ嗚呼子が筆力ぬくんば畫中先士  
何處も動名石の永世よ流るゝ成ゆる業わん  
巻端小毫と揮の一式上亭柳郊



げ目の巾  
 久留海  
 紀及加田の浦  
 淡島に神  
 祝詞成なり  
 中  
 應神文  
 皇  
 産  
 八幡宮  
 たり



神功皇后  
おんこうこうごう

三韓を  
 くをたす



武内宿禰  
たけだしげのむね



藤原千方



七し本とつがゆへ君乃困るは  
 鬼乃すまふん  
 平貞盛

平貞盛

上ノ二

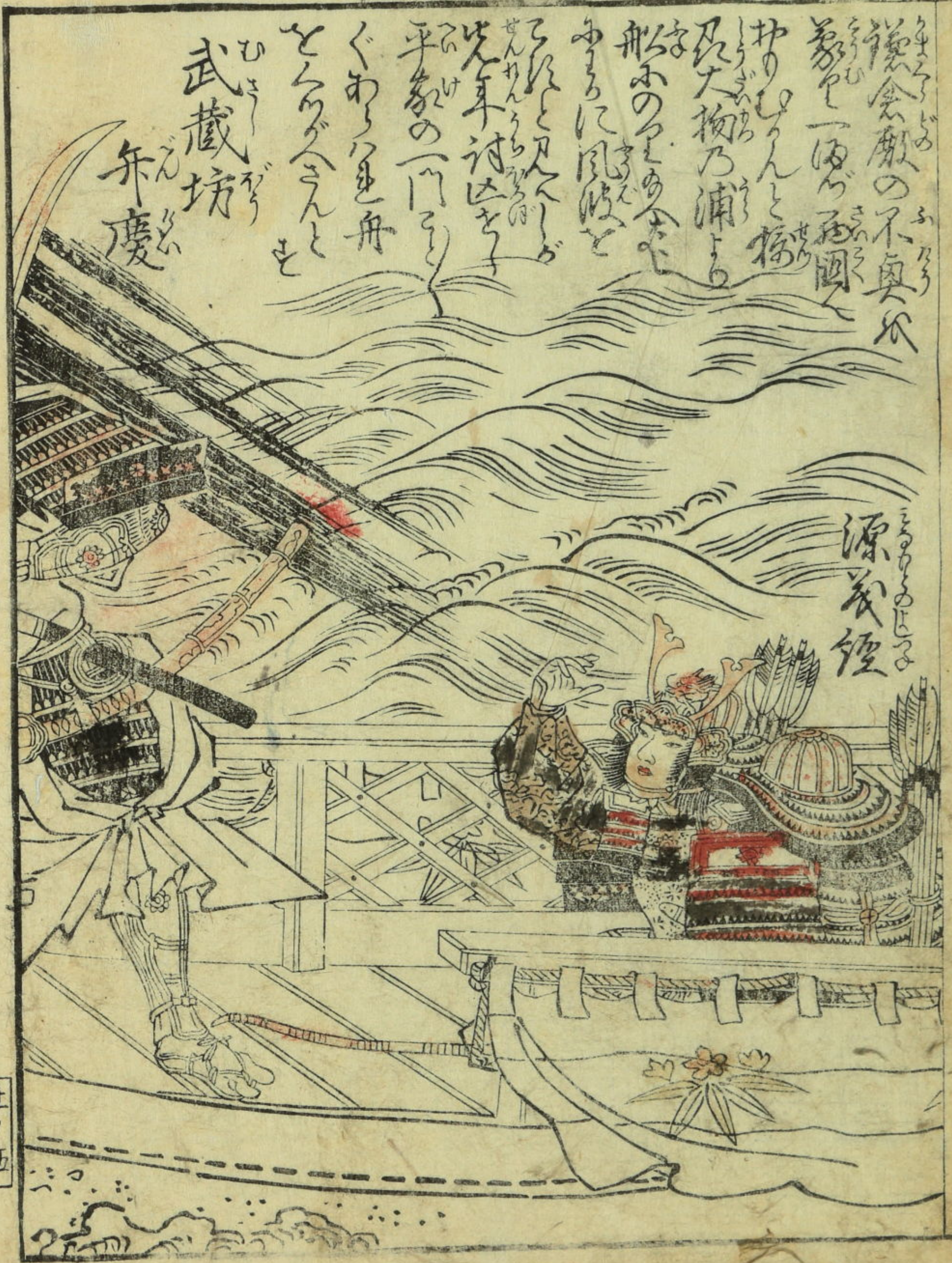




坂上田村將軍  
 其の才乃親世  
 の功カよふて勝  
 州鈴麻山乃悪鬼  
 之のちて今之音羽山  
 伽藍を立んと彼北の



上ノ四



後會殿の不真  
 象を一俣の  
 押のびんと  
 及大物乃浦  
 船ののり  
 中らに風波と  
 先年討込を  
 平家の一門  
 くわりの舟  
 とらぬさん  
 武蔵坊  
 弁慶

源義經



たけだ ぶんごん  
武田信玄



ながお ながまさ  
長尾護信

上ノ六

まんじうくろくしんせんの  
信貞川中島合戦と  
せし志行れこそ  
あふ其実実を  
わすれざと



高倉院  
たかくらのいん



清盛のふむかひ  
きよむねのふむかひ  
つねとむらさきひまわり  
むらさきふむかひを  
ゆかりに立わたりて  
頼政はつりて大物  
うけをまゐり給

源三位入道  
よしみとむらさき  
頼政





源頼朝  
朝臣



碓井  
貞光

市原野  
鬼童丸



源九郎  
義経

おひやのきまんご  
御厩喜之太

坂河夜うら乃  
ん

上ノ九

